

**純粹でやさしい心を（感性）！**



「のらねこの死」 ～7月のお話集会での話～

夏休みが始まってすぐのある日のこと、ラジオ体操から帰ってきた10歳の息子が、泣きそうな顔で私に言いました。

「お母さん、すぐそこに死んじゃいそうなネコがいるの。ねえねえ何とか助けてあげて。」

息子にひっぱられて路地を曲がると、ある家の庭の芝生の上に、のらねこが一匹、今にも死にそうな姿で横たわっていました。頬には大きな傷があり、身体の所々の毛が抜け、口をあけて苦しそうにハアハアと息をしています。

「残念だけど、お母さんにはどうすることもできないわ。もうすぐ死ぬかも…」

そう息子に告げると、息子は涙目になって、何とかしたいと泣き始めました。すると、その家の奥さんが出て来て、泣いている息子を見て、獣医さんと呼んでくれました。でも獣医さんも出来ることはありませんでした。息子は自分が飼っているねことそのねこが重なったからなのか、死を間近で感じる事が初めてだったからなのか、ポロポロ涙を流し続けました。

「このねこちゃんは、みんなに見守られて天国に行けるなんて幸せだね。ありがとうね。」

奥さんはそう言って息子に「100万回生きたねこ」という絵本を下さりこう言いました。

「世の中、悲しい事件が多いのに、のらねこの命に、こんなに涙を流す子がいるなんて、私も心が洗われました。やさしいお子さんね」と。

それから数日後、のらねこは静かに息をひきとりました。そして、その死骸には、夏の暑い日差しを除けるために、奥さんの黒い日傘が差してあり、息子や近所の子供たちの手によって、色とりどりの花が飾られました。

～ 中 略 ～ その家の奥さんや子供たちが、どんな気持ちで日傘を差したり花を飾ったりしたのか、考えるだけで胸が熱くなりますね。のらねこの死が、私たちに命の尊さを教えてくれる話でもありました。



**“ほっと一息” ～僕たち、私たちの手で～**

学校菜園が出来なくなり寂しい思いもありますが、各学年工夫して、あの手この手で植物を育てています。1年生のアサガオの栽培については、以前お知らせしていましたが、2年生ではミニトマト、3年生ではヒマワリを育てています。植物は何もしなければ、育たず枯れてしまいます。その意味で、栽培活動は、命の大切さ、命を慈しむ心を育てるには最適の教材です。

「お待たせ！ほら、お水だよ。たっぷり飲んで、大きく育ってね…」

毎朝、水をかける小さな背中から、そんな声なき声が聞こえてきそうです。こんな毎日の何気ない日常が、左ページで紹介したような、純粹でやさしい感性を育てるのだと思っています。



**お礼！**

お礼が遅くなりましたが、いじめ体罰のアンケート、学校評価アンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。私達は、その想いを真摯に受けとめ、全力で取り組んでいこうと意を強くしたところです。

そして何より、“顔と顔を合わせて”それが「真実」を知り、互いに「分かり合える」最善の方法だと私は思っています。本当の意味での“開かれた学校”を目指していきます。これからも、お困りのことや疑問に思われた際は、遠慮無く担任等へご相談下さい。

例年に増して暑い夏になりそうです。大人は笑顔は子どもを元気にします。皆様、どうかお体ご自愛下さい。



